

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	情報通信工学特別輪講第一		
英文授業科目名	Advanced Seminar in Information and Communication Engineering 1		
開講年度	2005年度	開講年次	
開講学期	前学期・後学期	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-情報通信工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報通信工学専攻		
担当教官名	各指導教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>技術者・研究者として活動していくためには、専門に特化した研究を遂行する能力を高める努力をするとともに、自らの専門分野の周辺の事情についても深い知識と洞察力を持つことが必要である。併せて自らの思考過程、研究結果を他者に正確に伝え、さらにこれらをより価値の高いものにするためには発表・討論の能力、問題発見と解決のセンスを身につける必要がある。</p> <p>このためには先ず、国内外の学会誌、論文誌、国際会議プロシーディング、専門書などから情報通信工学の分野での最新の話題や普遍的な学理を記述したものなど複数選び、これらを全員が熟読する。これをお互いに発表し合い理解度を高めるとともに、討論により本質を見抜くセンスを身に付ける。</p> <p>輪講の実施最小単位は各研究室であるが、専攻内を4グループ程度に分け、グループ間の連携も考慮しながら有機的な輪講運営を計り、より広い専門的視野を身につけるようにする。併せて、技術者、研究者としての社会的責任を自覚し、良識ある多角的視野を持ち、技術と社会の関係をわきまえ、技術者・研究者としての基本的マナーを身に付ける。</p>

【前もって履修しておくべき科目】

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

電気通信大学 平成17年度シラバス

【教科書等】

【参考書】情報通信工学に関する国内外の学会誌、論文誌に掲載された研究論文、国際会議プロシーディング、国内外専門書などを適宜用いる。

【授業内容とその進め方】

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

自らが担当したテーマに関する発表、討論の内容、ならびに他者が発表するテーマに対する理解度、討論への貢献度などを担当する教官群が総合的に判断する。

【オフィスアワー：授業相談】

【学生へのメッセージ】

今までは先人が築いた情報通信工学に関する学問を学んで来たわけであるが、今後は皆さんが情報通信工学の分野に1ページを書き加える番である。このためには技術をある程度幅をもちかつ奥深くとらえ、討論によってより高い価値を生み出すセンスと良識あるマナーを身に付けることが大切である。

【その他】